

新しいトウガラシ台木の栽培特性を確認

普及

農林センター

問い合わせ先: 農林センター栽培技術開発部 0772-22-6492

- 新たに開発された強勢台木(グランバギー、台パワーZ)を使用する場合、定植後から収穫開始時期までの初期管理は、従来の台木と同様の管理で問題ありません。
- 強勢台木を使用すると、従来の台木と比較して可販果収量が増加し、尻腐れ果の発生率が低下します。
- 台パワーZは収穫初期や比較的低温時に適し、グランバギーは比較的高温時に適する傾向が認められました

主な成果

● 初期成育(節数)に違いは見られません

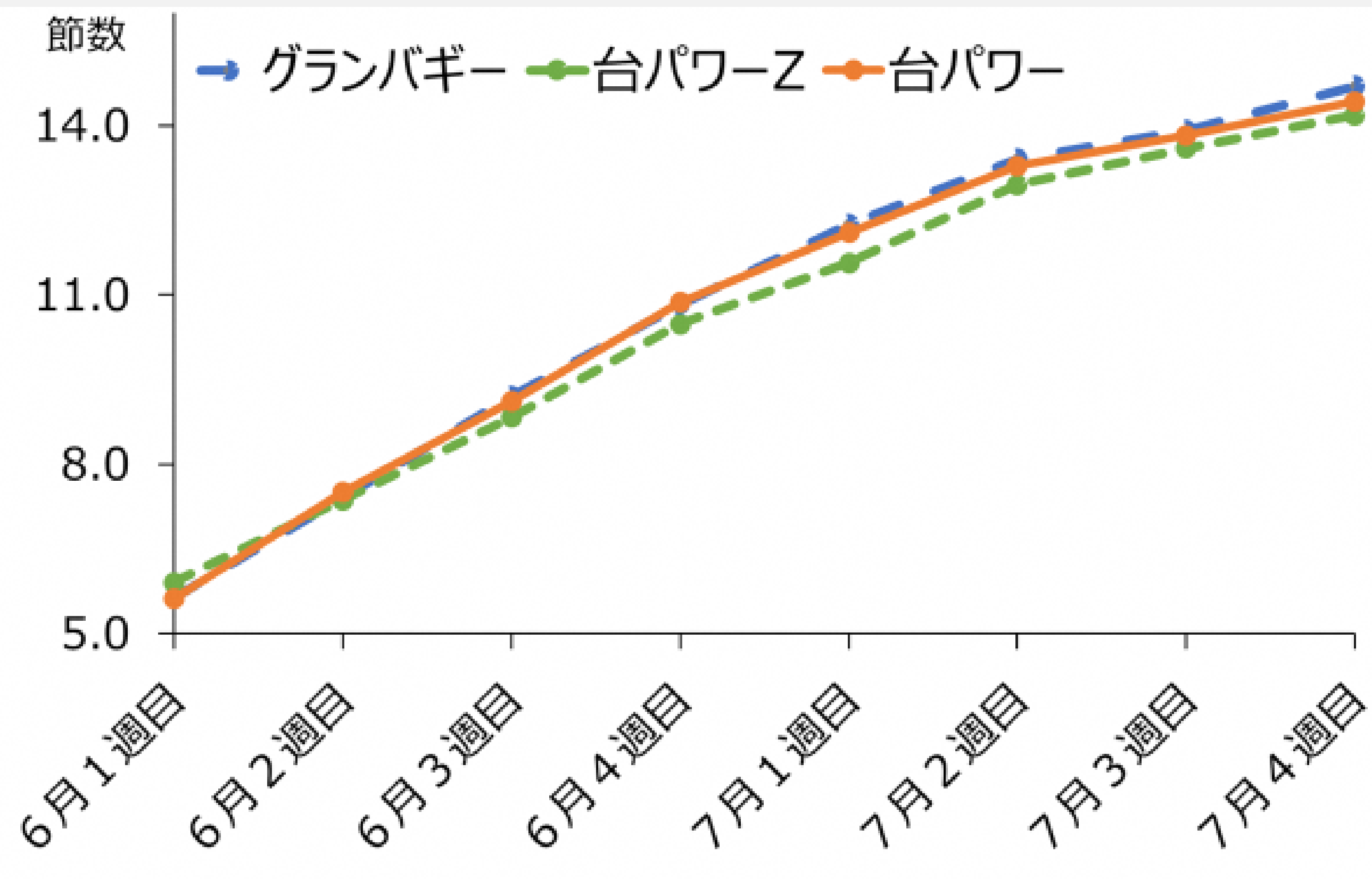


図1 台木による節数の違い

- 7月・8月の尻腐れ果の発生率がグランバギー、台パワーZを台木に用いることで慣行台木と比べ減少します

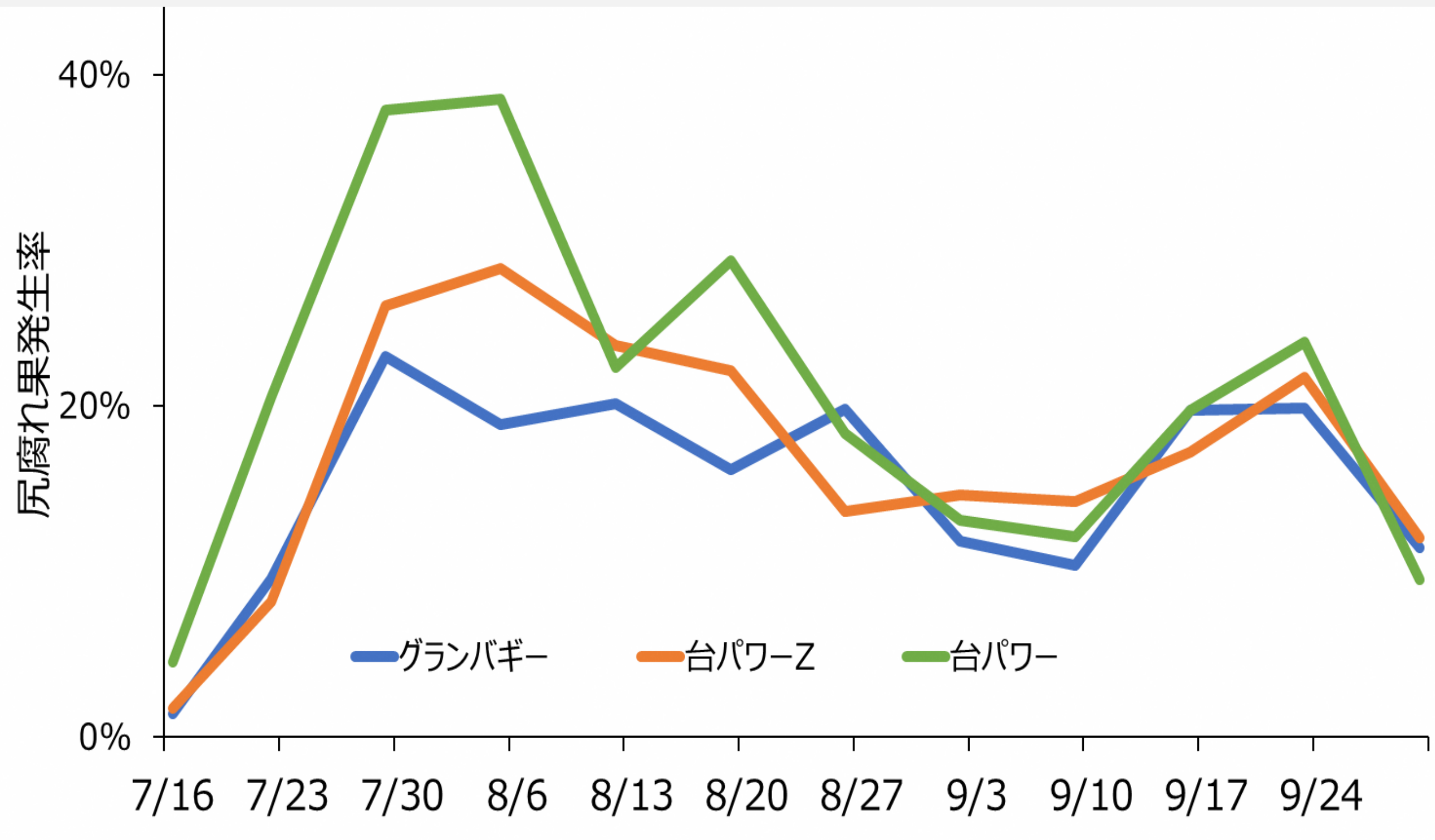


図2 台木による尻腐れ果発生率の違い

● 秀品率に違いは見られません

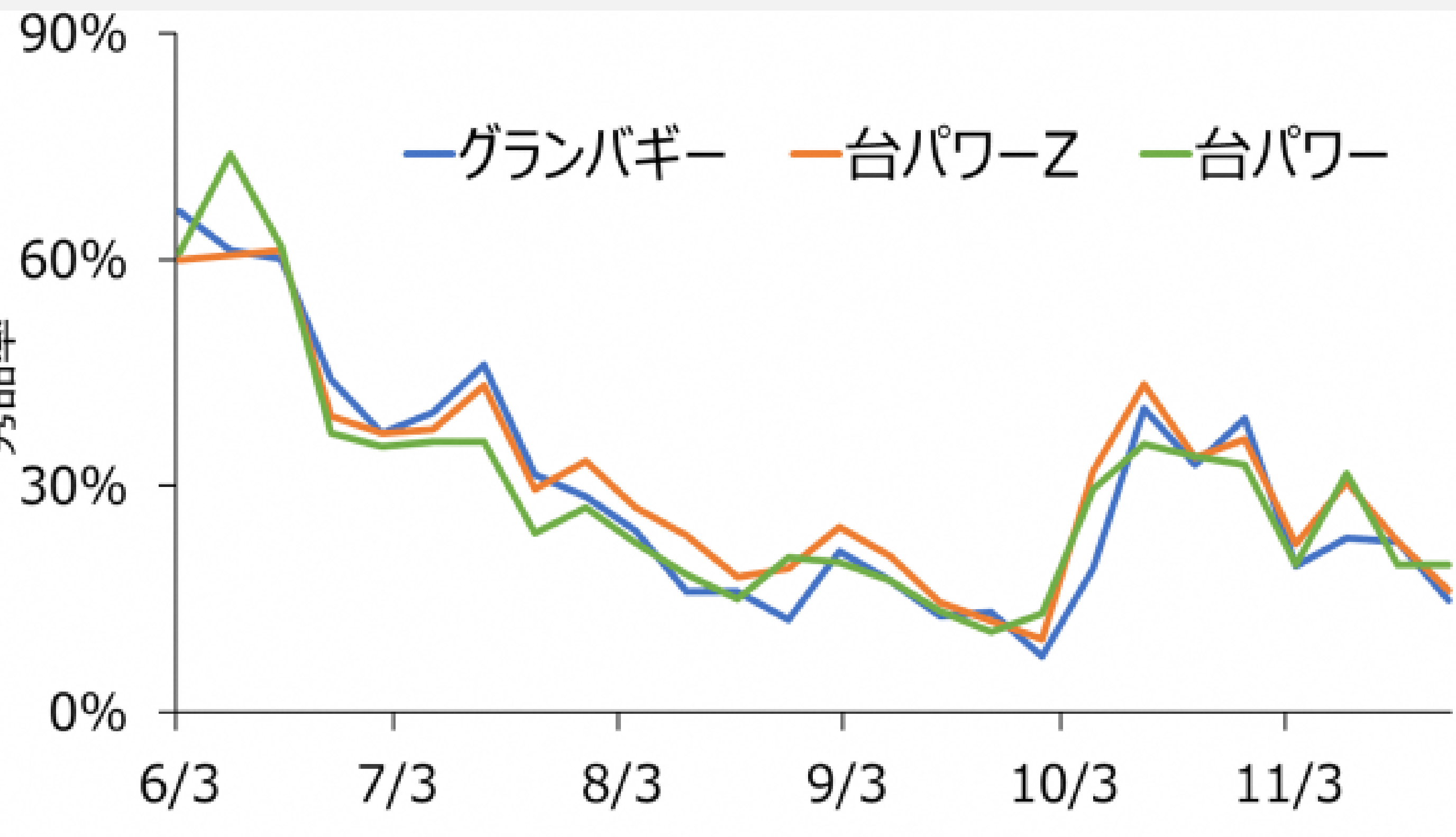


図3 台木による秀品率の違い

- 6～7月と10月の可販果収量は台パワーZが最も多くなります
- 8～9月の可販果収量はグランバギーが最も多くなります

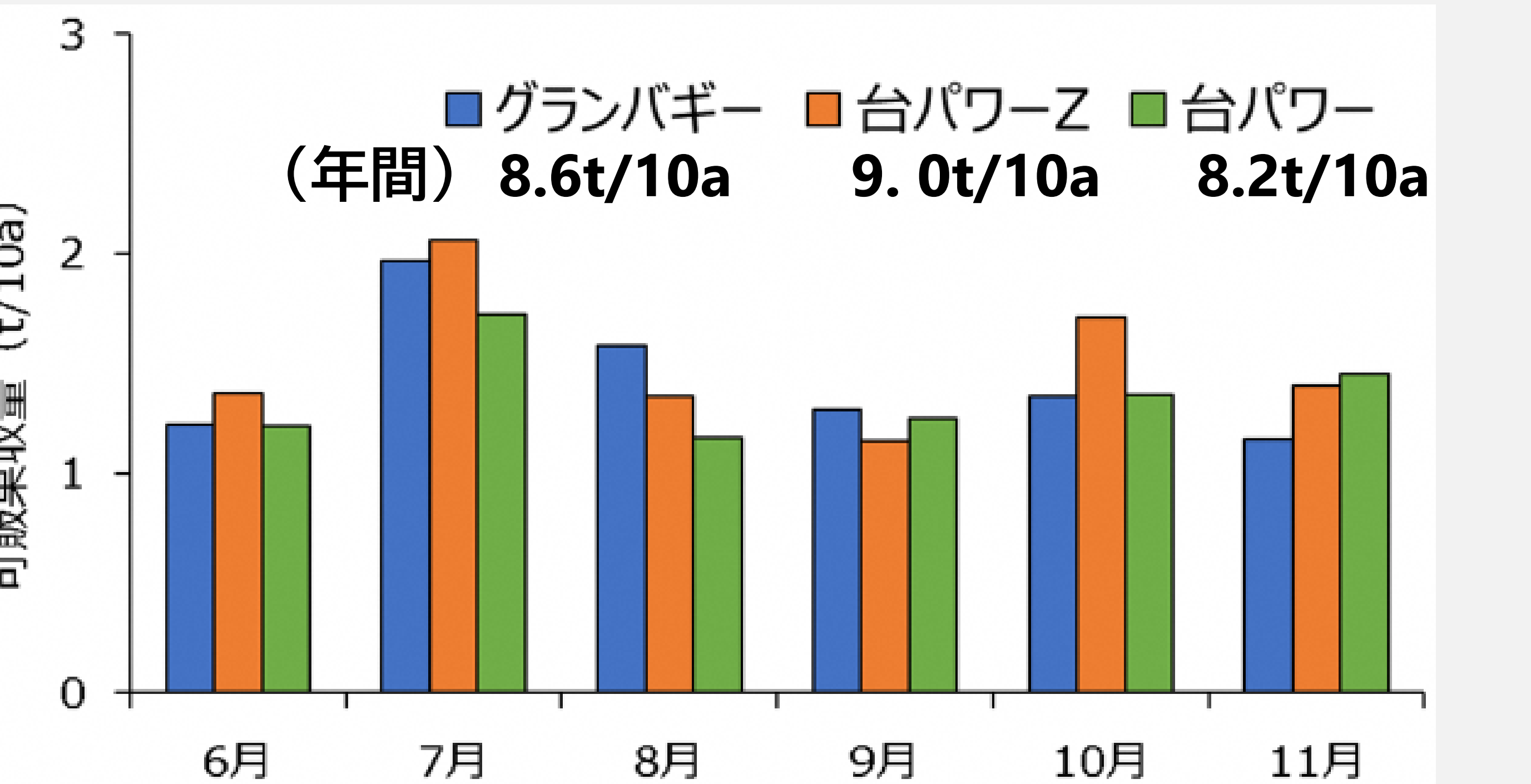


図4 台木による収量の違い

期待される波及効果

- 新たに開発された強勢台木を用いることで、可販果収量が増加し、尻腐れ果発生率が低下するため、同程度の種苗費で、収量約5%、販売額約13%(10万円/a)の増収が見込める。
- 高温に強い台木として期待される